

糸はうへへ縫ひたるへ間ある

宛長あり寸程縫ひたるへ右何毛

綿入りあり三つ縫ひたるへは

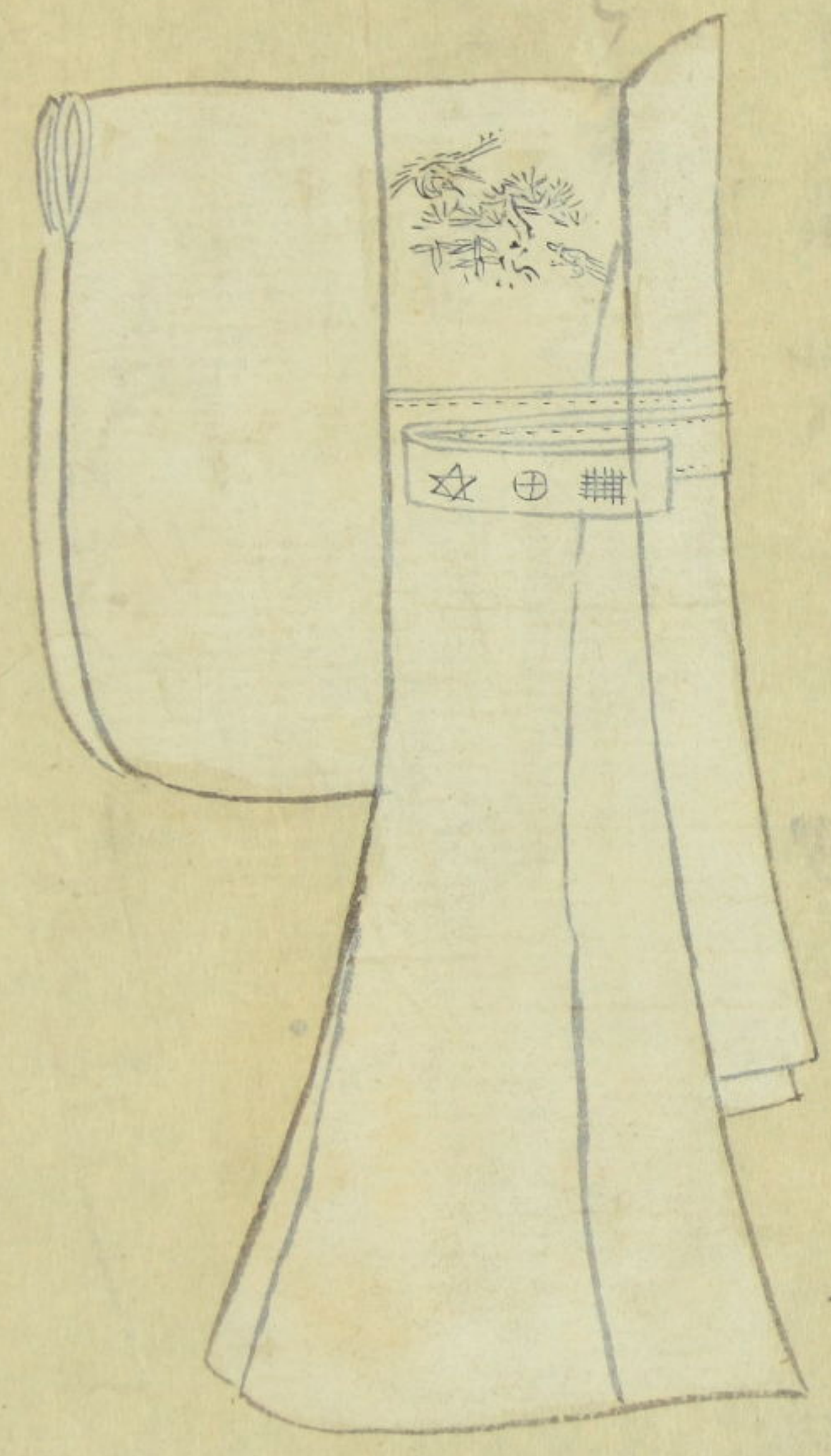
厚板一重縫ひたる也

昨傳ふ中佛の格とす時

柿と縫ひたる中へ

法神耳集書序を後

と申すへ



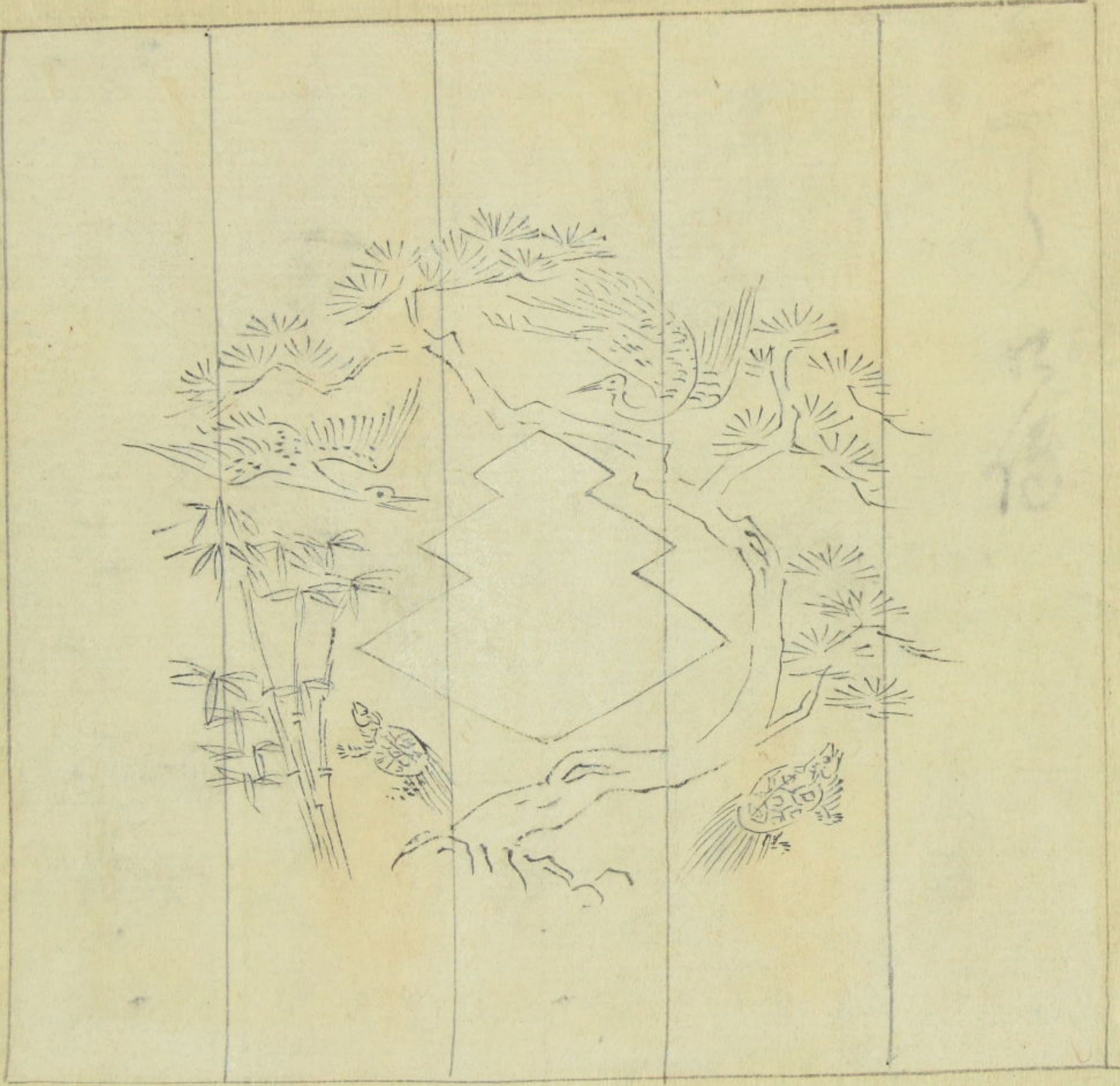
一回縫ひたる背縫ひたる也

雲より右乃縫ひたるへ

今も右へ縫ひたる袖のりあり



一 同海を背負ひて  
 雲より立ち乃海を  
 今も右の道一袖の  
 たり襟をきき  
 まる袖の  
 襟の  
 なる



一 袖を度看包白後生絹五幅

一 袖より着包 白後生絹五幅  
 巾人ありぬい三幅と天表不  
 露鳥松竹法器と大紋  
 又書也

一回包柳角とくを取た先  
 又形とと六窓取妙じと  
 けして又角とくをとり男  
 結ひよしてとふお物を付  
 魚一尾右の襷十二也

差後三人男  
 縁の二寸  
 足より一尺二寸





右一卷者小篆急书时  
 信列涉收落已故平出通  
 画心疏古涉侧出传授  
 今书易甲一多无他家  
 翻本隋书作亦也既心  
 涉与事纪年之率也  
 五字之外分心也

岩村之休

夏久

小篆系河内

知成

与息八心集心

定宜

小笠原河内

知

平原八郎

定宣

水谷卜

之成

伊藤甚喜

幸氏

同 隼太

幸亮

同 將曹

幸督

同 隼太

幸辰

松岡清助

辰方

本間與一

文化七鞭

孟春中浣



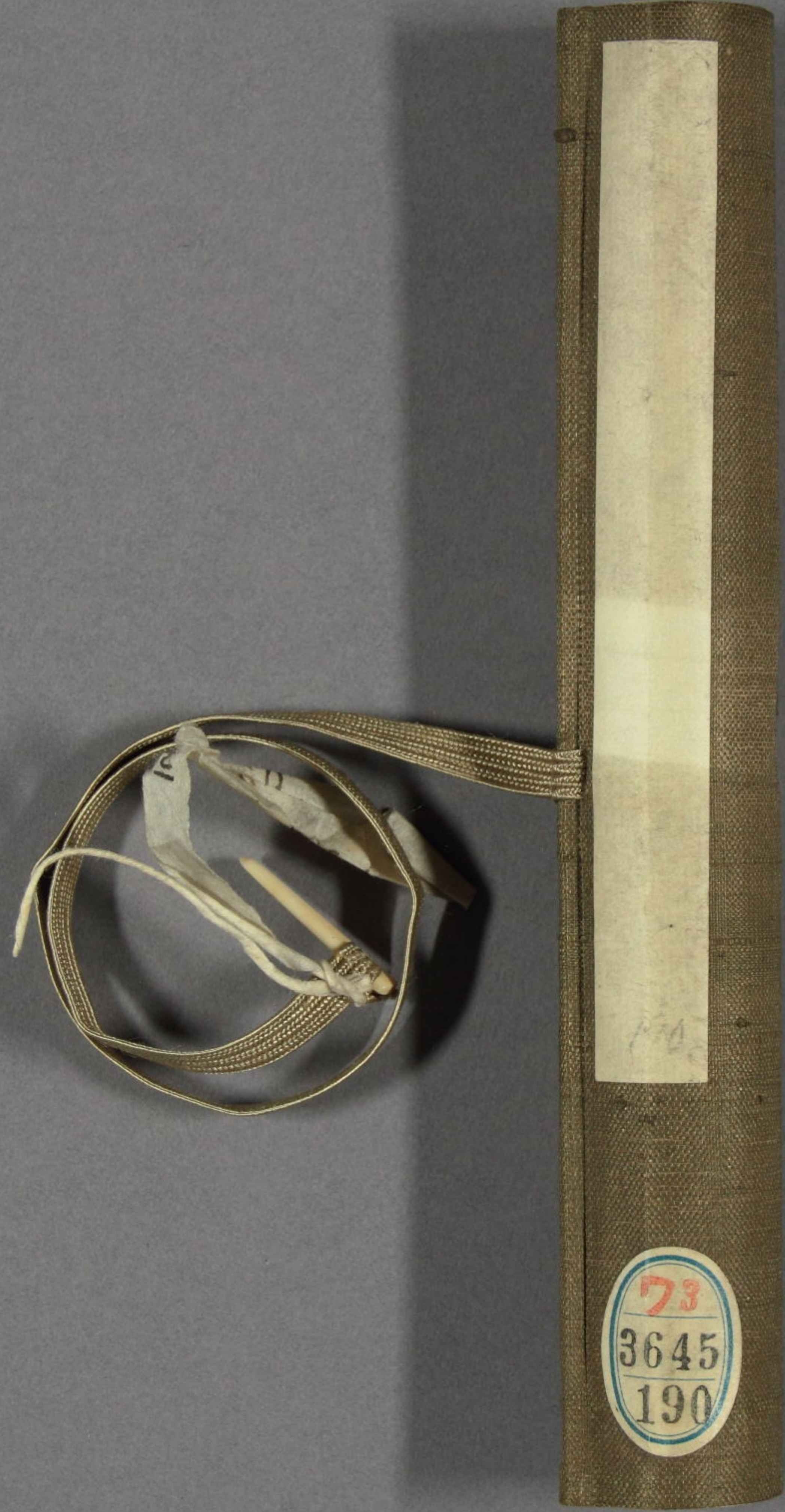
Handwritten signature in black ink below the seal.

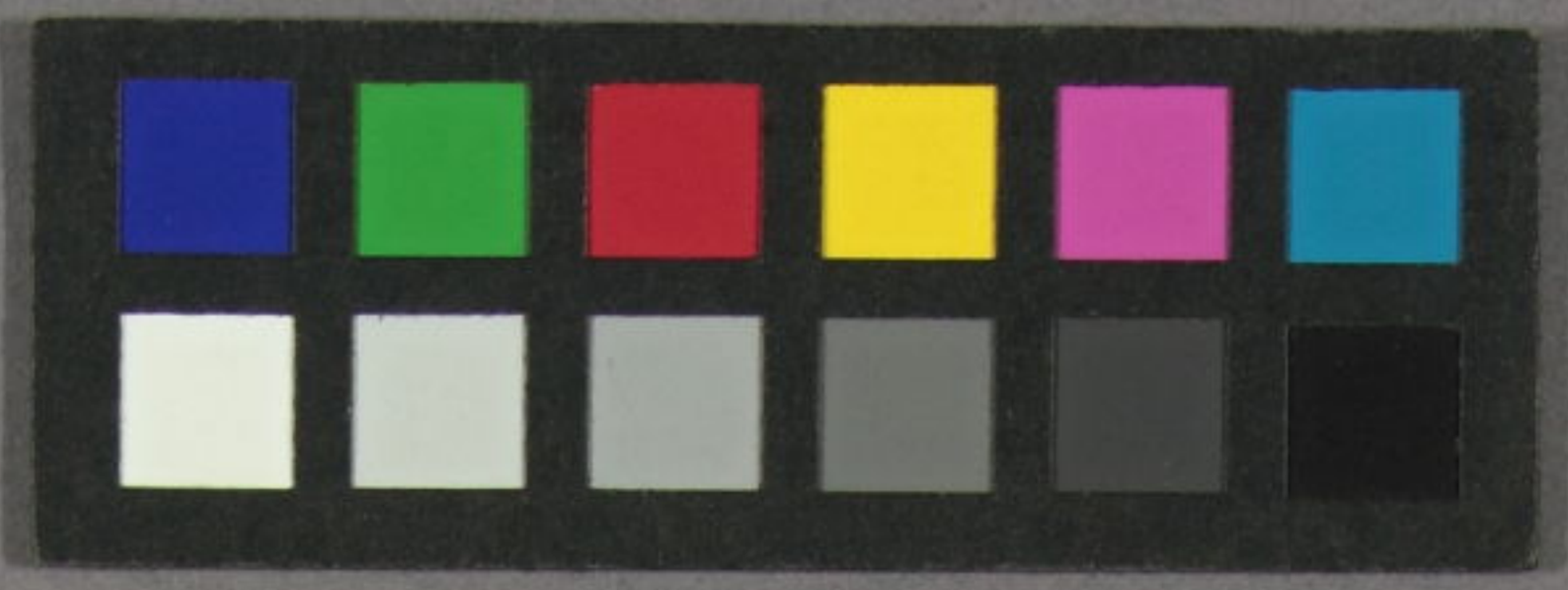
文化七鞭  
孟春中浣

本間 興一



Handwritten signature in black ink, appearing to be '興一' (Xingyi), written in a cursive style below the seal.





東洋一海子一問

3645  
190





170

73  
3645  
190

紅印

170  
3645  
190